

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	COOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

ブルーシチズンシップ — 日産のCSR —

日産は自らの持続的な利益ある成長はもとより、社会全体の持続的発展に貢献したいと考えています。そのために、幅広いステークホルダーの声に耳を傾け、協力し合いながら、社会からの要請を企業活動に取り込む努力を続けています。

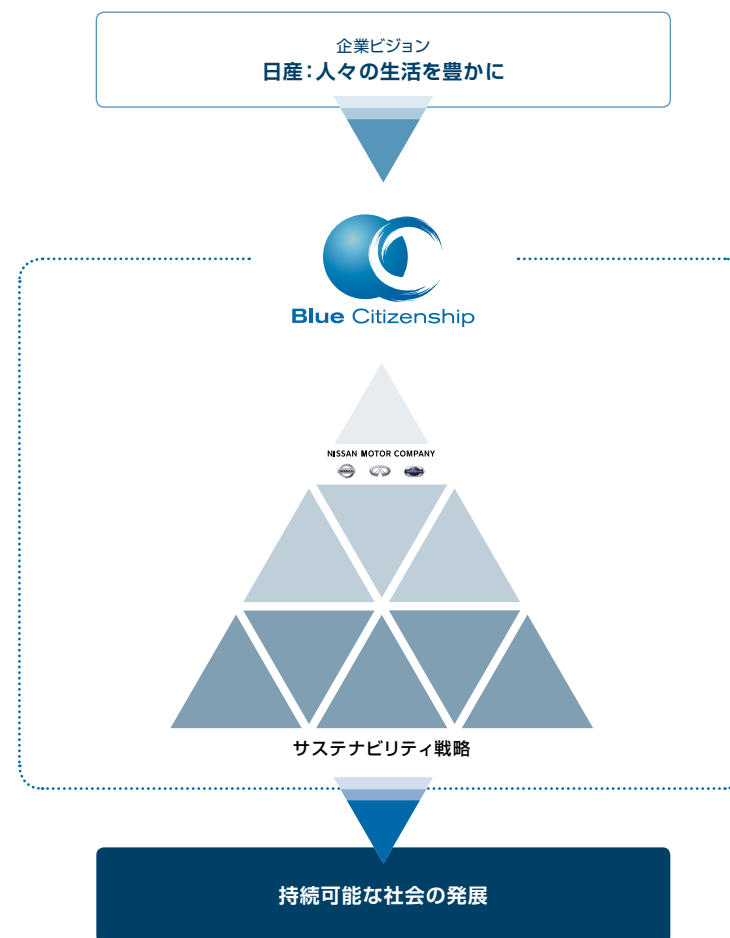
日産のCSRビジョン

日産は「人々の生活を豊かに」という企業ビジョンを掲げ、グローバルなあらゆる事業活動を通じて社会の持続的な発展に貢献していくことを目指しています。そして、独自性に溢れ、革新的なクルマやサービスを創造し、その目に見える優れた価値を、ルノーとの提携のもとにすべてのステークホルダーに提供することが、日産のミッションです。

同時に、世界をリードする自動車メーカーとして、人々が直面する課題の解決に貢献することも、私たちの使命です。日産はお客さま、株主、従業員、地域社会などすべてのステークホルダーを大切に思い、将来にわたって価値ある持続可能なモビリティの提供に努めます。事業を通じて経済貢献すると同時に、社会の一員として、持続可能な社会の発展を目指します。

こうした日産のCSRの総称が「ブルーシチズンシップ」です。ブルーシチズンシップを通じて社会からの期待にしっかりと応えていく会社を目指します。

私たちの企業ビジョン	日産：人々の生活を豊かに
私たちの企業ミッション	私たち日産は、独自性に溢れ、革新的なクルマやサービスを創造し、その目に見える優れた価値を、すべてのステークホルダーに提供します。それらはルノーとの提携のもとに行っていきます。
私たちのCSRビジョン	日産は業界をリードする持続可能な企業の一つになることを目指します。



▶▶ page_08

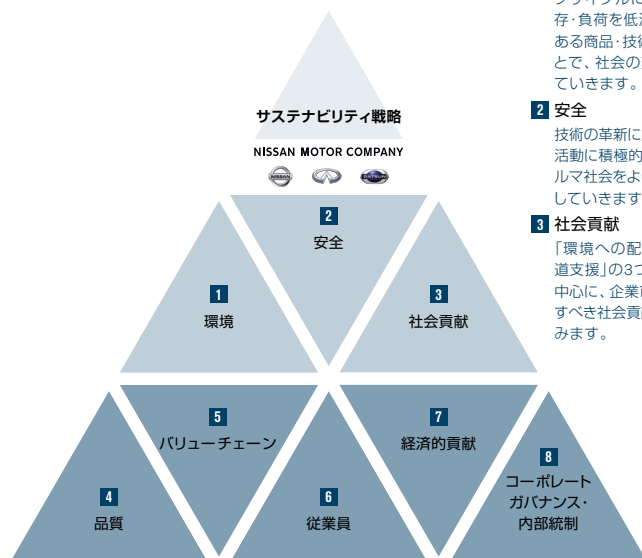
サステナビリティ戦略の詳細を掲載しています

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	COOメッセージ	ブルーシズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

サステナビリティ戦略

日産は、CSRの取り組みとして8つの「サステナビリティ戦略」を定めています。「環境」「安全」「社会貢献」の3つは、世界をリードする自動車メーカーならではの活動を推進する領域です。クルマが抱えている課題を解決し、持続可能なモビリティ社会の実現に貢献するとともに、企業のCSR活動全体を牽引していきたくと考えています。「品質」「バリューチェーン」「従業員」「経済的貢献」「コーポレートガバナンス・内部統制」という5つの領域も、私たちが社会から信頼され、必要とされる企業であり続けるために欠かせません。日産は8つのサステナビリティ戦略を誠実に推進することで企業としての社会的責任をしっかりと果たし、信頼を高めていきます。

8つの「サステナビリティ戦略」



1 環境

持続可能なモビリティ社会の実現に向けて、クルマのライフサイクルにおける環境依存・負荷を低減し、実効性のある商品・技術を拡大することで、社会の変革をリードしていきます。

2 安全

技術の革新に加え、安全推進活動に積極的に取り組み、クルマ社会をより安全なものにしていきます。

3 社会貢献

「環境への配慮」「教育」「人道支援」の3つの重点分野を中心に、企業市民として果たすべき社会貢献活動に取り組みます。

4 品質

世界中でトップレベルの製品やサービスをお客さまにお届けします。

5 バリューチェーン

サプライチェーンのあらゆる段階において、倫理的で環境に配慮した行動がなされるよう促進していきます。

6 従業員

多様な人材がグローバルビジネスを通して自らの成長を実感できる、魅力的な組織づくりを目指します。

7 経済的貢献

持続的な利益ある成長を目指します。そして社会全体の経済的発展にも貢献します。

8 コーポレートガバナンス・内部統制

法令と会社のルールを順守し、公平・公正で高い透明性を持った効率的な事業活動を目指します。

推進体制

2011年度から、CSR部は最高経営責任者(CEO)の直轄組織となり、組織上もCSRを経営の中心に位置づけることになりました。

8つの戦略の目標設定や進捗確認など社内横断的な管理については、これまで「CSRステアリングコミッティ(CSR運営委員会)」が担ってききましたが、2013年度より日産の最高意思決定機関である「エグゼクティブ・コミッティ」で方針や今後の取り組みを決定することになりました。エグゼクティブ・コミッティには経営に直接携わる副社長以上のメンバー10名が参加。また、年に1回の開催だったCSRステアリングコミッティに対し、エグゼクティブ・コミッティは月に1回開催されるため、より迅速で的確な意思決定が可能になります。CSR活動と事業活動を密接に関連させることで、日産の持続的な利益ある発展と社会の持続的な発展という2つの方向性を常に一致させた経営を目指していきます。

CSRに関する意思決定プロセス



CSRスコアカード

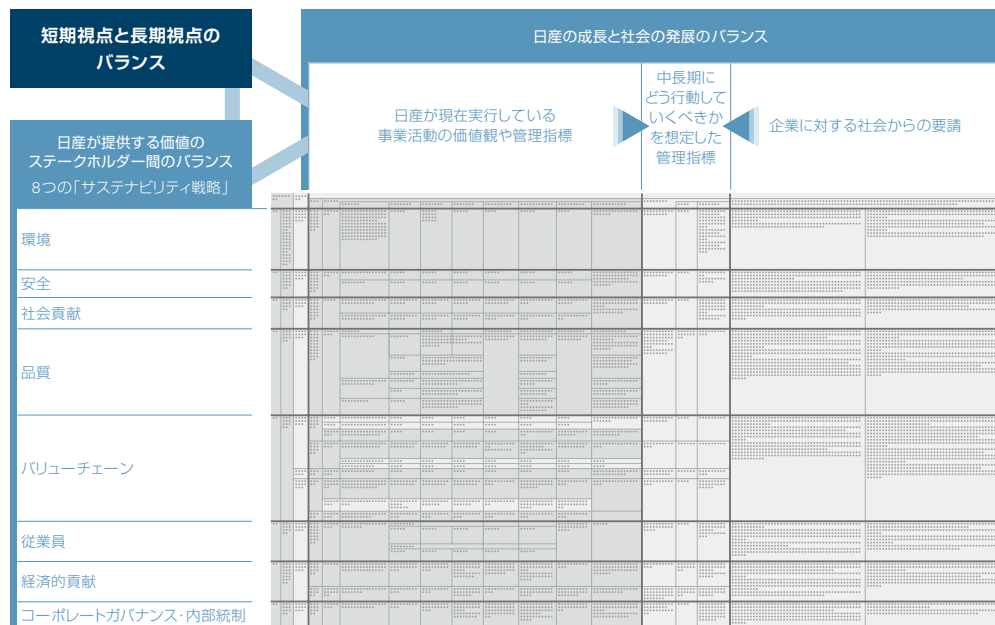
年間を通じたCSR推進の管理ツールとして、「CSRスコアカード」を作成しています。スコアカードでは、縦軸を8つのサステナビリティ戦略とし、日産が提供している価値のステークホルダー間のバランスをチェックします。横軸では、日産の成長と社会の発展のバランスを追求していくことを狙いに、「日産が現在実行している事業活動の価値観や管理指標」と「企業に対する社会からの要請」、そしてその間に「中長期にどう行動していくべきか

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	COOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

最新のスコアカードを掲載しています
▶ page_107-112

を想定した管理指標」を記載しています。横軸と縦軸の両軸を踏まえ、全体として短期視点と長期視点のバランスを追求していきます。CSRスコアカードは実績評価も含めて毎年内容を更新し、公表しています。

管理ツール「CSRスコアカード」



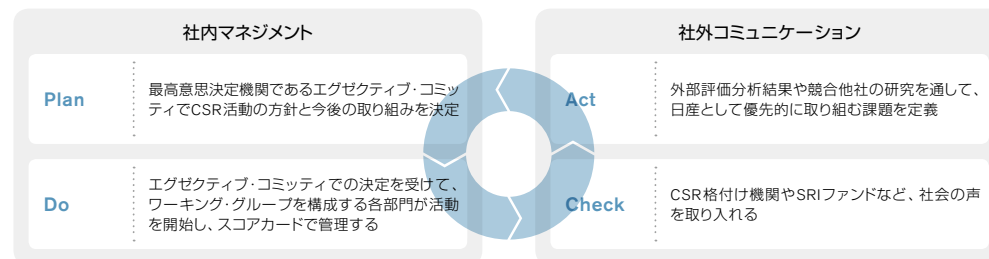
ステークホルダーとの協働

ステークホルダーとの信頼関係構築



日産は、社会の声を企業活動に取り込み、私たちの企業活動と社会的要請のベクトルを一致させた経営を目指しています。ステークホルダーからより多くの声を取り入れるために、「社会の声に耳を傾け、オポチュニティとリスクの芽を見出す」活動を行っており、その骨格は、以下のPDCA (Plan-Do-Check-Act: 計画、実施、評価、改善) で構成されています。

日産のCSRを推進するPDCAサイクル



日産の社内浸透策

日産では従来、本レポートやインターネットを主な媒体として、社外はもとより社内のコミュニケーションにも力を入れてきました。従業員一人ひとりに自分とCSRとの接点は何であるかを考えてもらい、具体的な行動につなげてもらえるようCSRの情報発信を強化しています。

2012年6月にはブルーシチズンシップ(日産のCSR)に関する考え方や活動をまとめた「ブルーシチズンシップストーリーズ」¹⁾を発行し、イントラネット、ウェブサイトに掲載。日本国内では全従業員に冊子を配布しました。また、2012年度から、新人研修および新任課長研修においてもCSRに関するセッションを実施しています。従業員向けポータルサイトである「WIN」²⁾の中の「CSRヘッドライン」というサイトでは、自社の活動のほか、CSR全般に関するさまざまな情報を掲載しています。

▶ website

¹⁾「ブルーシチズンシップストーリーズ」はウェブサイトからダウンロードできます

²⁾ WIN : Workforce Integration @ Nissan

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	COOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

社会的責任投資(SRI)への組み入れ

財務面だけでなく、環境や社会性の観点から企業を評価し、投資対象を選ぶ社会的責任投資(SRI: Socially Responsible Investment)が注目される中、日産はCSR経営を推進し、積極的な情報公開に取り組んできました。DJSI Asia Pacific、FTSE4Good、モーニングスター社会的責任投資株価指数などのSRIインデックスに組み入れられています*。

*2013年6月現在



ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・アジアパシフィック・インデックス(DJSI Asia Pacific)

「DJSI」は、米国のダウ・ジョーンズ社とスイスのRobecoSAM社による社会的責任投資株価指標。「DJSI Asia Pacific」はアジア・太平洋地域の企業を対象としたものとして2009年3月に新設。



FTSE4Good

FTSE4Good インデックスシリーズ

英国のフィナンシャル・タイムズとロンドン証券取引所が共同出資する独立企業のFTSE社が開発。



モーニングスター社会的責任投資株価指数 (MS-SRI)

日本の独立系評価機関であるモーニングスターが開発した、日本で初めての社会的責任投資株価指数。



東京証券取引所 テーマ銘柄選定

東京証券取引所が特定のテーマや指標をベースに銘柄を抽出し、テーマの銘柄を公表するという取り組みにおいて、日産は第1回「ESG」、第3回「女性の活躍」(なでこ銘柄)でテーマ銘柄として選定されました。

▶ website

<http://www.ftse.com/ftse4good/index.jsp>

「国連グローバル・コンパクト」へ参加

日産自動車は、国連が提唱する「人権・労働・環境・腐敗防止」についての普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト」に、2004年から参加しています。国連グローバル・コンパクトは、国連のコフィー アナン事務総長(当時)が1999年に世界経済フォーラム(ダボス会議)で提唱した、企業による自主行動原則です。

日産では、下記10原則に基づくさまざまな活動を一層強化するために、CSRマネジメントを進めています。

国連グローバル・コンパクトの原則

人権

- 原則1: 企業はその影響の及ぶ範囲内で国際的に宣言されている人権の擁護を支持し、尊重する。
- 原則2: 人権侵害に加担しない。

労働基準

- 原則3: 組合結成の自由と団体交渉の権利を有効なものにする。
- 原則4: あらゆる形態の強制労働を排除する。
- 原則5: 児童労働を実効的に廃止する。
- 原則6: 雇用と職業に関する差別を撤廃する。

環境

- 原則7: 環境問題の予防的なアプローチを支持する。
- 原則8: 環境に関して一層の責任を担うためのイニシアチブをとる。
- 原則9: 環境にやさしい技術の開発と普及を促進する。

腐敗防止

- 原則10: 強要と賄賂を含むあらゆる形態の腐敗を防止するために取り組む。



▶ website

国連グローバル・コンパクトに関する詳細はウェブサイトをご覧ください

「持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)」への参画

日産は「持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)」に加盟しています。WBCSDはビジネス、社会、環境が持続可能となるよう、グローバルな産業界を導くことを目指した、先進的な企業の連合体です。WBCSDには、あらゆる産業界と大陸を代表する、約200の企業が参加しており、その収益総額は7兆ドル以上に上ります。持続可能な発展におけるベストプラクティスの共有や、現状を変革させる革新的なツールの開発を行っています。

▶ website

持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)に関する詳細はウェブサイトをご覧ください